

Ⅲ. 研究・活動報告

(1) 七尾城に携わった1年

室員 萩山 教俊

七尾城は国指定の史跡であり、市民の皆様や県内外の方から愛される七尾市の「たから」である。七尾城は戦国大名であった能登畠山氏が築いた山城で、能登の政治・文化の拠点として機能していた。特徴としては天然の要害地形を利用した縄張と、山上に築かれた大規模な石垣があり、城郭構造としては大規模な堀切りによって分断された曲輪群の集合体とみられ、遺構からは、能登畠山氏から上杉氏、前田氏が拠点とした歴史性があり、城郭と城下が一体的に残る現状の姿は、その歴史の最終段階の状況である。

私は、5年ほど埋蔵文化財関係の仕事に携わってきたが、城跡の保存管理や活用・整備に携わったことがなく、また、七尾城についても「遺跡」「石垣が残っている城跡」程度の知識しか持っていなかった。しかし、七尾城跡保存活用推進室の室員として、七尾城跡の保存・活用・整備に取り組む中で、七尾城に関する知識や考えを多角的に深めることができ、七尾城の魅力を知ることができた一年となった。



西の丸の現場踏査

七尾城に関する業務については、具体的に除草作業、看板設置、遊歩道の修繕・整備などの日常管理をメインとして行ってきた。また、9月に崩落した県道城山線に代わる迂回路の案内パンフレットを作成するなど、七尾城に関わる情報の発信に努めてきた。そのほか適切に保存管理し、活用・整備をすすめていくためには、七尾城跡に対する正確な情報を基に行う必要があり、七尾城跡の現状を把握するために最新の航空レーザー測量図を用いて、今まで分からなかった堀切りなどの遺構を確認する現地踏査なども継続的に行っている。以下では、今年1年間の活動の中で特に印象に残っている、除草作業と看板設置作業について紹介する。

日常管理の中で頻繁に行ってきたのは除草作業である。除草作業では、景観整備と遺構保護の観点から、多くの方が訪れる本丸や桜馬場など人目に触れやすい所から、斜面の急な関東堀など人が立ち入らず作業しにくいところの手入れも行っている。また、人員も限られており、一日に行うことのできる範囲も限られているので作業には数日かかる場合もある。大変な作業ではあるが、七尾城の景観を守り、来城者に城跡散策を楽しんでいただくためには必要なことだ。実際に来城者からは、「よく整備されていて、大変景観が良い」、「きれいに遺構が残されており、素晴らしい」、「来てよかった」などという声が寄せられていて大変喜ばれている。来城者の声を聞く

たびに「自分たちが整備を行ってきたことを来城者がちゃんと見てくれているんだな」と、景観整備の効果を実感している。今後も継続的に城跡内の除草作業に励み、来城者が何度でも来たいと思う場所にしたい。



関東堀 除草前（左）、除草後（右）

急斜面での除草作業はとても大変だったが、除草することで堀切の様子が見えるようになった。

城内を散策する来城者のために、城内の見学ルートを示した誘導看板や、遺構や歴史を解説した説明看板を設置し、来城者への便宜を図る取り組みも行っている。これらは、自分たちの手で試行錯誤しながら作成したもので、来城者に伝えたい・知ってもらいたい情報を十分にかつ簡潔に表現する力が求められる。できるだけ来城者の方に見やすく、そして分かりやすいものを作成し提示するように心がけているが、自分たちが掲示したい情報の予備知識がある分、それを前提として看板を作成してしまうこともあり、予備知識を持たない来城者の方に分かりづらいものになることもあった。改めて「予備知識のない来城者の目線に立って作成する」ということの重要性と、その難しさを肌身に感じており、誰が見ても分かりやすいものを作成していきたい。

このように、七尾城の保存・活用・整備に関する業務に携わるなかで、今後の業務に活かすべき多くの事を発見し、学ぶことができた。そのほかにもこの1年で七尾城の魅力を感じることもできた。私が思う、「七尾城の魅力」は、平成29年12月に行われた史跡七尾城跡保存活用計画策定フォーラムで講演された千田嘉博氏の「まだ解明されつくしていないこと」という言葉のとおり、解明されていないがゆえに城跡に上るたびに当時への思いや、考えを深めることができる、そんなロマンがあるところが魅力だと思っている。私自身、これから七尾城を調査し、解明していくことがとても楽しみである。

七尾城の業務に取り組んでいくにあたって、少しでも多くの方に楽しんで頂けるように、今の状況に満足するのではなく、今後も自己研鑽しながら七尾城の保存活用に繋がる取り組みを行っていききたい。



七尾城への迂回路の誘導看板

デザイン、設置場所、設置方法など試行錯誤した。

(2) 七尾城古絵図の筆写関係について

室員 麦居 和真

はじめに

七尾城跡を描いた古絵図（以下、七尾城絵図）については、概ね【表】のようなものが知られている^{*1}。このうち、七尾城絵図の筆写関係については、すでに③と⑤の絵図の構図が同じであること、②の絵図と小田吉之丈編『能登七尾城主畠山記』（昭和3年発行）の付図が同じ構図であることなどが指摘されている^{*2}。しかし、これらの絵図がどのように筆写されてきたのかに関しては検討されていないように思われる。そこで本稿では、七尾城絵図の筆写関係について、主に①～④の絵図を素材として考察を試みたい。

【表】七尾城絵図一覧

No.	史料名	法量 (cm)	所蔵者	摘要
①	能州鹿島郡七尾城古図 (七尾城古図)	縦 28×横 31	石川県立図書館	年代未詳 「原本蚊野氏」
②	能州鹿島郡七尾古城図 (七尾城絵図)	縦 28×横 31	石川県立図書館	「元禄比敷」 「能登七尾城主畠山記」の付図と同じ構図
③	能州鹿島郡七尾古城図 (七尾城古図)	縦 28×横 31	石川県立図書館	「文化比敷」 「原本小林氏蔵」 ⑤と同じ構図だが、記載事項は少ない。
④	能州鹿島郡七尾古城一見図 (七尾古城一見案図)	縦 28×横 31	石川県立図書館	「能登日記 乾 文化十四丁丑 田邊萬佐於 乃識」との注記
⑤	七尾城址古図	縦 75×横 131	七尾城史資料館	③と同じ構図だが、記載事項は多い。
⑥	能州七尾畠山之城図	縦 29×横 41	金沢市立玉川図書館	

1. 「能州古城図」について

【表】の絵図のうち、①～④までの絵図は石川県立図書館所蔵の「能州古城図」（収蔵記号 K391/42）に収録されている七尾城絵図である。「能州古城図」には七尾城跡を含む能登各地の城跡図等 15 点（いずれも写）が収録されている。

この「能州古城図」の成立年代および筆写者に関して詳しいことは不明である。しかし、成立年代に関しては、「能州古城図」に収録されている小丸山城跡を描いた「能州鹿島郡小丸山城跡之図」に「陸地測量部、図式ハ築城本部ニ於テ」の記載が見えること、末森城跡を描いた「能州末森城址踏査図」に「踏査年月昭和十年夏、踏査者歩兵少佐蚊野豊次」の記載が見えること、勝山城跡を描いた「能州勝山城跡之図」に「昭和十年蚊野写」の記載が見えることなどから、早くとも昭和 10 年（1935）以降と思われる。また、筆写者に関しては不明であるが、15 点の絵図が一括して所蔵されていること、紙の規格が統一されていることから、「能州古城図」はいずれも同一人により筆写されたものと思われる^{*3}。

2. ①の絵図について

①の絵図は、「原本蚊野氏」と見えることから、蚊野氏所蔵絵図を写したものとみられている。この「蚊野氏」については不明であるが、同じく「能州古城図」に収録されている「能州末森城址踏査図」に見える「蚊野豊次」と同人である可能性が高いと思われる。蚊野豊次は陸軍歩兵少

佐であるが、末森合戦に関する著書があり^{※4}、また「能州末森城址踏査図」(の原図)を描いていることなどから、城跡に対する関心の高い人物であったと思われる、①の絵図の原図を所持、あるいは踏査図を作成・所持していたのではないか。①の絵図には、現在安寧寺と呼んでいるところを「三宅屋敷」、善谷付近を「温井屋敷」とするなど、他の絵図には見られない記述を含むことから興味深いものがあり、原図の所在等も含め今後の研究に期待したい。

3. ②の絵図について

②の絵図に関しては、「元禄比敷」と記されていることから元禄年間に作成された絵図の写しとみられている。しかし、すでに小田吉之丈編『能登七尾城主畠山記』の付図と同じ構図であることが指摘されていることから、②の絵図は『能登七尾城主畠山記』の付図を模写したものである可能性が高いとみられる^{※5}。

『能登七尾城主畠山記』は能登畠山氏歴代の事績をまとめたものであるが、七尾城跡についても詳しく記されている。特に「安寧寺ヤシキ」、「調度丸」、「寺ヤシキ」など、現在の七尾城跡内の地名として定着しているものの他の絵図には見られない地名が記されていることや、「ユサヤシキ」、「温井ヤシキ」を現在地に配置していることから、現在の七尾城跡内の地名の由来は概ねこの絵図にあると思われる。

ところで、小田吉之丈も編集に携わった『石川県鹿嶋郡誌』(昭和3年発行)には、【史料1】のように「七尾城跡の現形(現況)」が記されている。この【史料1】の記載の基となったとみられる記述が【史料2】とみられる。【史料2】は大正13年(1924)に成立した『石川県史蹟名勝調査報告』の「七尾城址」の項目の一節で、傍線部に示した箇所が【史料1】の記述とほとんど一致していることが分かる。『石川県鹿嶋郡誌』の編集に携わっていた小田吉之丈も、おそらく【史料2】の記述には目を通していたと思われる。『能登七尾城主畠山記』の編集の際にも、【史料2】の記述が参照された蓋然性は高いと思われる。このように考えると、『能登七尾城主畠山記』の付図は、大正期に行われた踏査の成果を視覚的に表現したものと評価されよう。

さて、②の絵図には「元禄比敷」と記されていることは前述したが、②の絵図を『能登七尾城主畠山記』の付図を模写したものと考えた場合、この絵図の原図が元禄年間の作成とされた理由を考える必要がある。昭和9年(1934)に七尾城跡が国史跡に指定される際に提出された申請書の添付図によれば^{※6}、「原図ハ元禄年間ノ図ナリ」とあり、②の絵図とは別に、元禄年間の原図なるものを基に作成された図が存在することが知られる。この図は『能登七尾城主畠山記』の付図とは描き方や記載事項に異同があるものの、『能登七尾城主畠山記』の付図にしか見えない「調度丸」などの地名が見えること、「遊佐屋敷」などの地名の位置が概ね同じであることなどの共通点を見出すことができる。この元禄年間の原図なるものは現在確認できていないものの、『能登七尾城主畠山記』の付図を模写したとみられる②の絵図と同じく原図を元禄年間としている点は注目され、あるいはこれらの絵図は元禄年間の原図を基に作成されたとも考えられるが、後考を待ちたい。

4. ③の絵図について

③の絵図に関しては、「文化比敷」、「原本小林氏蔵」と記されていることから、文化年間に作成された小林氏が所蔵する絵図の写しとみられている。しかし、すでに七尾城史資料館が所蔵する⑤の絵図と同じ構図であることが指摘されていることから、③の絵図は⑤の絵図を模写したものである可能性が高いとみられる。⑤の絵図は、図中に「天保十三年植松」とみえることから、早くとも天保14年(1843)以降に作成されたものとみられる。

さて、⑤の絵図は現在、七尾城史資料館が所蔵しているが、三宅邦吉著『能州畠山史要』（昭和17年発行）に絵図の写真が掲載されており、そこに「小林栄太郎氏所蔵」と見えることから、昭和17年（1942）の時点では小林栄太郎氏が所蔵していたとみられる。なお、同年の第1回七尾城まつりと同時に開催された七尾城史料展覧会の出陳目録には「七尾城址ノ図 同（七尾市）相生町 小林栄太郎」と見えることから、かつて小林栄太郎氏が所蔵していた絵図であったことは間違いないと思われる^{※7}。

5. ④の絵図について

④の絵図に関しては、「能登日記 乾 文化十四丁丑 田邊萬佐於乃識」と見えることから、加賀藩士田辺政己が文化14年（1817）10月に能登各地を巡った時の紀行文『能登日記』記載の絵図（七尾古城一見案図）の写しであることが知られる^{※8}。『能登日記』は乾・坤二冊に分かれており、七尾城絵図が描かれているのは坤であることから、「乾」の記載は誤りであることが知れる。

『能登日記』の絵図には「本、二、三、遊佐美作ヤシキ、温井備前ヤシキ、長対馬守ヤシキ、桜馬場、関東橋、馬喰、鶏塚、寨」などの記載が見える。しかし、能登日記の記述（【史料3】）によれば、著者田辺政己は所口から石動山に向かう途上の山路で七尾城跡を見ただけで、城跡には実際に立ち寄っていないことが知られる。また、【史料3】傍線部に見える「土図」は、その割注から縄張図のことと思われ、『能登日記』に載っている絵図を指していると思われる。しかし、遠方の山路から七尾城跡を眺めた田辺政己が城跡の曲輪配置などを正確に把握できたとは考えにくく、この絵図は『能登日記』を記述するにあたって何らかの絵図または情報を基に田辺政己が筆写したものと推測される。

ところで、【史料4】は寛政13年（1801）成立の富田景周『越登賀三州志 古墟考』（以下、『古墟考』）である。これによれば、下線部で示した地名の位置が、『能登日記』に載っている絵図と一致していることが知られる。また、二重下線部からは『古墟考』に付随する絵図の存在が想定される。田辺政己は『古墟考』の情報を参考にしつつ絵図を描いたのではないだろうか。

まとめ

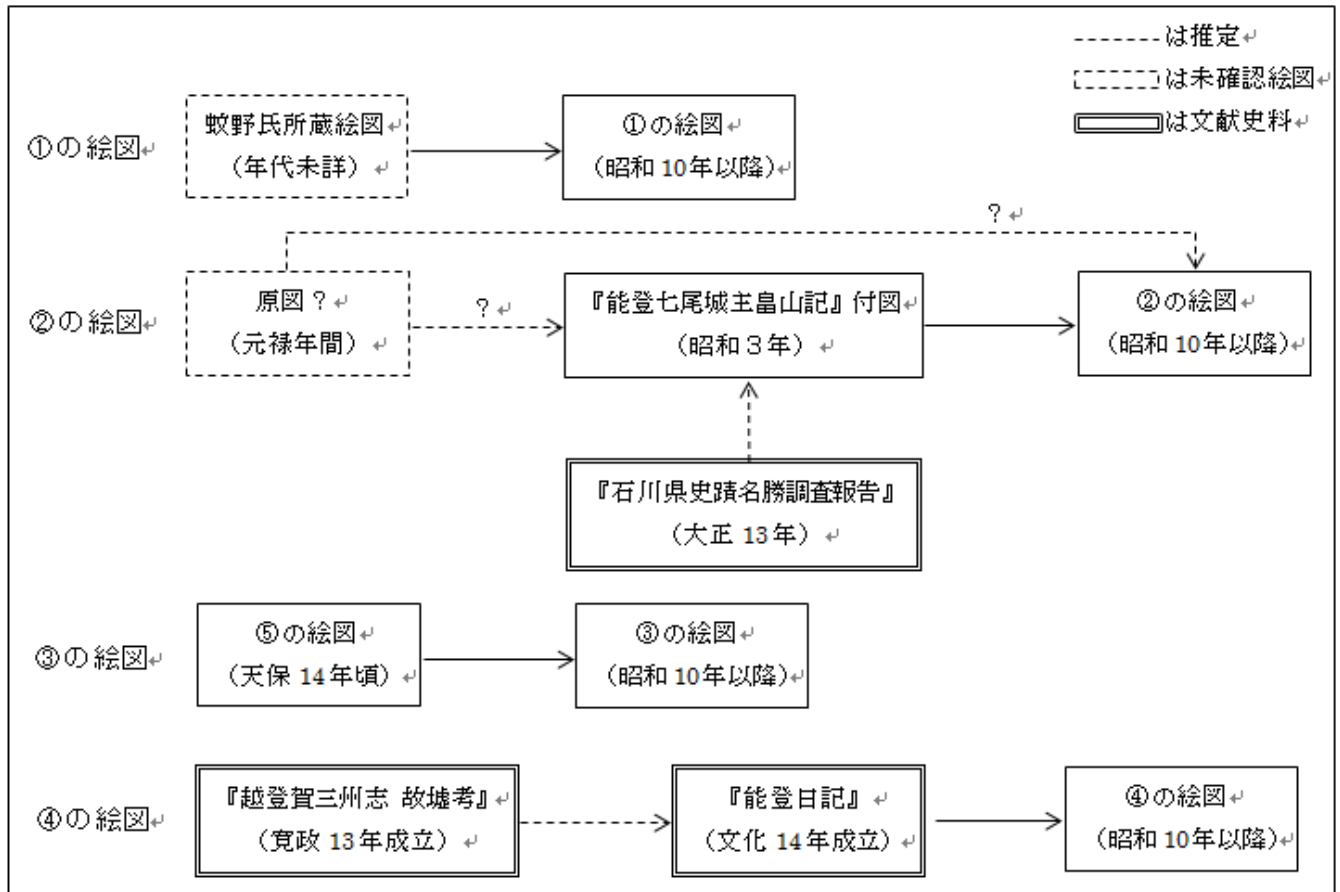
本稿では【表】で示した七尾城絵図の内、主に①～④の絵図を素材として、その筆写関係の考察を試みた。その結果をまとめると、概ね【図】のようになるかと思われる。

七尾城跡は、宝永年間（1704～1711）までには人々が訪れる名所旧跡となっていた。寛政13年（1801）には富田景周『故墟考』により七尾城跡の来歴や遺構の様子が紹介され、江戸後期から明治期にかけての七尾城跡に関する基本的な認識が形成されたとみられる。④の原図である田辺政己の絵図は、江戸後期の七尾城跡に関する認識を視覚的に表現したものといえよう。

幕末から明治期には森田柿園『能登志徴』に代表される地誌類で七尾城跡が紹介され、能登畠山氏や築城年代についても論じられるようになる。こうした七尾城跡に関する関心の高まりを背景に、③の絵図の原図である⑤の絵図が描かれたのではないだろうか。

その後、大正13年（1924）には、石川県内の城跡等の調査成果が『石川県史蹟名勝調査報告』にまとめられ、七尾城跡の遺構や文献資料の概要が報告された。現地踏査により江戸期以来の『古墟考』の記述以外の地名が多く紹介され、小田吉之丈が携わった『石川県鹿嶋郡誌』や『能登七尾城主畠山記』の記述に影響を与えたとみられる。②の絵図の原図とみられる『能登七尾城主畠山記』の付図は、こうした大正期までに行われた調査の成果が視覚的に表現されたものといえよう。

【図】七尾城絵図の筆写関係図



【註】

- (1) 石川県教育委員会編『石川県中世城館跡調査報告書Ⅱ（能登Ⅰ）』（石川県、2004年）、七尾市教育委員会編『史跡七尾城跡保存活用計画書』（七尾市、2018年）等。
- (2) 前掲註（1）参照。
- (3) なお、村上吉郎「末森城跡曲輪構成の検討」（末森城跡調査団編『末森城跡発掘調査報告書』押水町、1989年）の表によれば、「能州古城図」に収録されている絵図の内、末森城跡を描いた絵図に関しては、昭和10年の成立で、蚊野豊次（陸軍歩兵少佐）の筆写によるものとしている。根拠は不明であるが、「能州末森城址踏査図」に「踏査年月昭和十年夏、踏査者歩兵少佐蚊野豊次」と見えるのがその根拠であると思われる。しかし、後述する文化14年（1817）に田辺政己が記した『能登日記』の絵図が原図とみられる④の絵図には「文化十四年田邊萬佐於乃写」と見え、これは「文化14年に田辺政己が描いた絵図の写」と解釈できる。それと同じような記載が「能州勝山城跡之図」にもあり、「昭和十年蚊野写」とある。これを「昭和10年に蚊野（豊次カ）が描いた図の写」と、④の絵図の場合と同様に解釈すると、昭和10年に蚊野豊次が筆写したのではなく、蚊野豊次の絵図を含め、昭和10年以降に筆写されたとみられるが、後考を待ちたい。
- (4) 蚊野豊次編『日本古戦史 末森合戦の研究』（1936年発行）
- (5) なお、小田吉之丈は『加賀藩農政史考』・『うぶ砂土筆』に代表される著書があり、また『石川県鹿島郡誌』の編纂に当たるなど、大正から昭和初期にかけて活躍した地域史研究家として知られている（七尾市史編さん委員会編『図説七尾の歴史と文化』七尾市、1999年）。
- (6) 「古城址指定申請ニ付立案書」（『新修七尾市史7 七尾城編』）。
- (7) 「七尾城史料展覧会出陳目録」（『新修七尾市史7 七尾城編』）。なお、小林栄太郎氏に関しては、「七尾の赤ひげ先生」と親しまれた七尾の町医者小林栄太郎と同一と思われる（七尾市史編さん委員会編『図説七尾の歴史と文化』七尾市、1999年）。
- (8) 田辺政己（1753～1823）は、11代藩主前田治脩の時には御絵図御用を務め、正保・延宝・元禄その他の国絵図を比較し、異同を調査訂正した『加越能御絵図覚書』をまとめ、その副産物として『加越能三州古城考』を著すなど、古城跡に対する関心の高い人物であったことが知られる（宇佐美孝「加賀藩の城館調査」（『中世城館跡調査報告書Ⅲ（加賀Ⅱ）』石川県、2006年）。また、後述する『越登賀三州志』の著者である富田景周の相談相手になっていたらしく、城館跡に関する情報を得やすい立場にある人物であった（日置謙校訂『能登路の旅』石川県図書館協会、1932年）。

【史料1】『石川県鹿嶋郡誌』前編（『新修七尾市史7 七尾城編』）

七尾城址

（中 略）

参照

七尾城跡の現形

- 一、五輪塔附近は現今植樹をなしあり。
- 一、七曲半ヶ窪は楼門の跡と称せられあり。
- 一、袴腰は登山道の西南にあり平坦なる地にして眺望に富み、北東より南西まで十五間、西北より東南に三十間余。
- 一、靴掛は三ノ丸の北にありて袴腰より稍高し。
- 一、トヨの水と称する所は城の水手なりと伝ふ。
- 一、本丸の下なる南側に四間に九間の矩形の石壁あり、其の上に長さ九間高さ三間の石垣あり。
- 一、二ノ丸は現今矢竹等密生して石垣は最顯著にして二段に築かる、東西十三間南北七間。
- 一、三ノ丸は二ノ丸の北にあり約三百坪の面積を有す。
- 一、西ノ丸は本丸と二ノ丸の間にあり。
- 一、調度丸は本丸と本丸の北に深き堀を経てあり。
- 一、カント橋は本丸と長氏の屋敷とを連続せる橋の名なりと伝ふ、其の下を烏帽子谷といふ。
- 一、物見櫓跡は本丸の東にあり山頂高く海拔三百六十米突を算す。

（後 略）

【史料2】『石川県史蹟名勝調査報告 第二輯』（『新修七尾市史7 七尾城編』）

第十一章 七尾城址

（中 略）

〔城址〕

鉄道七尾駅ヨリ追分、藤野、竹町ノ地積ヲ経テ古屋敷ニ至レバ石地藏アリ、西光寺跡ヨリ発掘セルモノニシテ足利時代ノ作品タルコト明ナリ、天神河原ニ鎮座セル松尾天神社は畠山氏ノ守護神トシテ聞ユ、古屋敷ヨリ古城部落ヲ経テ城地ニ登レバ麓ノ東側ニ矢竹畑アリ、蔵屋敷ハ数段ニ分レ諸所礎石ノ残存セルモノアリ、五輪塔附近ハ現今植樹ヲナシ、七曲半ヶ窪ハ楼門ノ跡ト称セラレ、袴腰ハ登山道ノ西南ニアリ平坦ナル地ニシテ眺望ニ富ミ、北東ヨリ南西マデ十五間、西北ヨリ東南ニ三十間余、靴掛ハ三ノ丸ノ北ニアリテ袴腰ヨリ稍高シ、「とよの水」ト称スル処ハ城ノ水手ナリト伝ヘ、石動山ヨリ黄金ノ桶ヲ以テ水ヲ導キシト云フ。之レヨリ本丸ノ下ナル南側ニ四間ニ九間ノ矩形ノ石壁アリ、其ノ上ニ長九間、高さ三間ノ石垣アリ、二ノ丸ハ現今小竹密生セルモ石壁ハ最顯著シテ二段ニ築カレ、東西十三間南北七間、二ノ丸ノ北ニ三ノ丸アリ、約三百坪ノ面積ヲ有ス、本丸ト二ノ丸トノ間ニ西丸アリ、本丸ノ北ニ深キ濠ヲ隔テテ調度丸アリ、ソノ間ニカント橋ト称スル深キ濠アリ、之レヨリ下ヲ烏帽子谷ト称ス。本丸ノ東ニ物見櫓跡ト称スル山頂アリ、海拔三百六十米突ヲ算ス。城下町ハ現今ノ古城及ビ古屋敷ニ侍屋敷ヲ有シタルモノノ如ク、西光寺、龍門寺等ノ舊跡ハ田園トナレリ、七尾城廃滅ノ後寺院ノ多クハ七尾ノ西方西湊村地積ナル西山ニ移リ、今存スルモノ少カラズ。

（後 略）

【史料3】能登日記 文化14年10月19日条（『新修七尾市史11 教育文化編』）

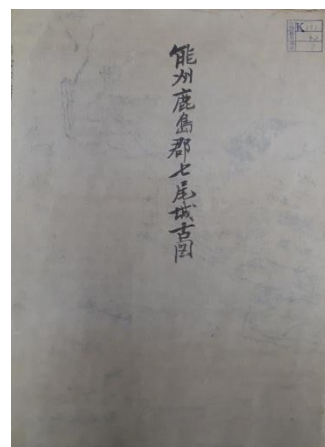
十九日〈快晴〉朝六時前発足、所口と府中は村続き也、夫方天神河原村を右に見て、古府村〈府中六拾六丁二十間〉の腰を通り、多根村の別れ道にかゝる〈岐道の辻右ニ松の大木あり、一本松といふ、此道より石動山へ登るを多根越といふ〉是より五六丁行ハ、左に七尾古城〈此城地ハ、宇多帝の御時、源ノ順こゝに居給ひ、近衛院ノ御時、武部判官師澄館を此山の南の麓に構へ、後醍醐帝御時、中ノ院定清これに居、御花園帝の永享之頃、畠山氏数代茲に在、正親町院御時、高德公御手ニ入と云伝へり〉見ゆ、城山高しといへ共、此山路猶高きゆへ、城山を見下せは土図〈城取を習ふに、砂を以て城形をなすを土図といふ〉のこどく、城郭分明なり、それより上り坂十丁余〈茲まで賀にて、是より難所ゆへ歩行する也〉を経て千野村〈八田郷なり〉の高、升形〈千野村より仰き望めは、升の底のこどく四角ニ見ゆるとそ〉と云所より北を見れば、向ふに島地・内海・外海残らす見へて鮮やか也〈依而御下絵図を取出し、くらへ見るに、聊も違ハす〉茲に右石動山、左水上道との石碑あり（後略）

（〈 〉は割注）

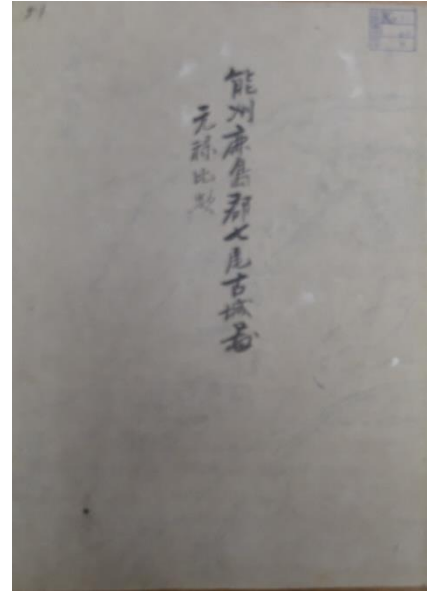
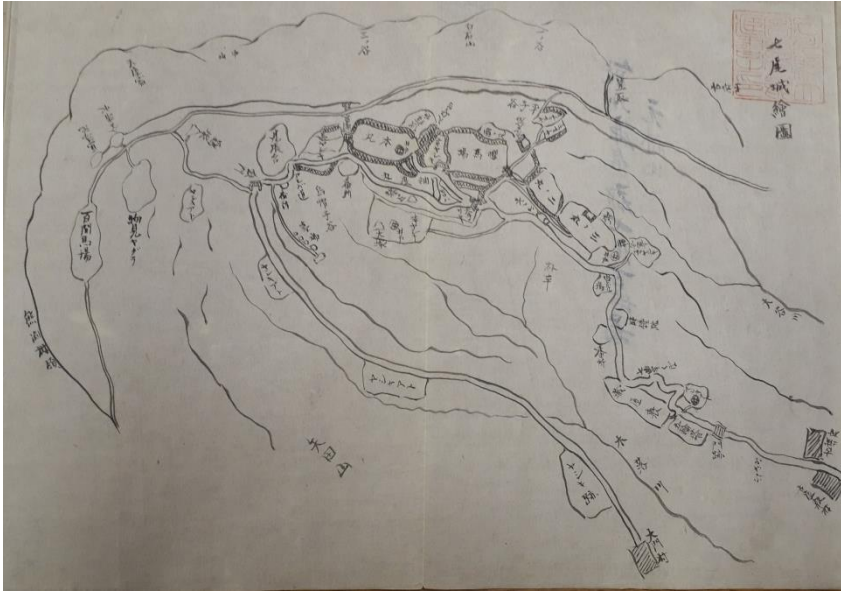
【史料4】越登賀三州志故墟考（『新修七尾市史7 七尾城編』）

七尾「七尾城蹟在矢田郷（中略）其遺跡ヲミルニ今本二三丸ト東ヨリ南へ連渉ル、其本二三カケテ前ニ桜馬場アリ、今搦手口トテ南ニ坂アリ、（中略）其前ニ砦址アリ、西面ハ山路ニテ中間ニ三折シテ下ル、是大手口ナラン、（中略）此道ノ下ヨリ右手ニ遊佐美作・温井備前第迹アリ、三ノ丸ノ西ニ当ル也、長対馬第迹ハ遥ニ隔リ本丸ノ側辺ニアリ、其下ニ谷第トテ段々ニ幾区ニモ成リ下ル、又此辺ニ関東橋アリ、又馬場迹アリ、又搦手口ト呼処此方ニモアリ、（中略）凡ソ此地大抵四面穹谷ニテ堅城也、図別付ス、（中略）天正五年閏七月謙信七尾ヲ攻ルトキ大手赤坂口ハ長綱連、搦手大石谷ハ温井景隆、水落口ハ遊佐続光トアリ、今此地共絶テ知者ナシ」（後略）

（「 」は二行割）



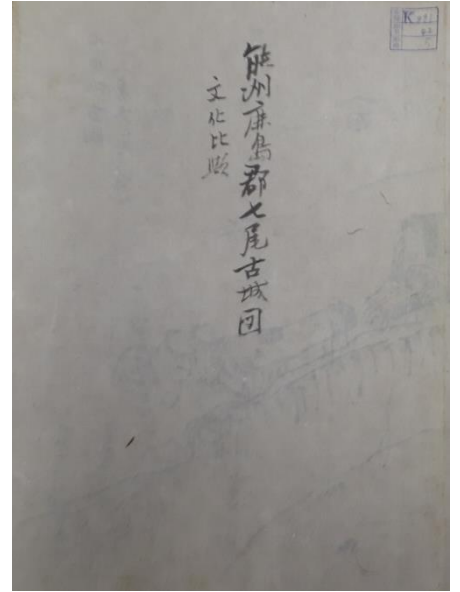
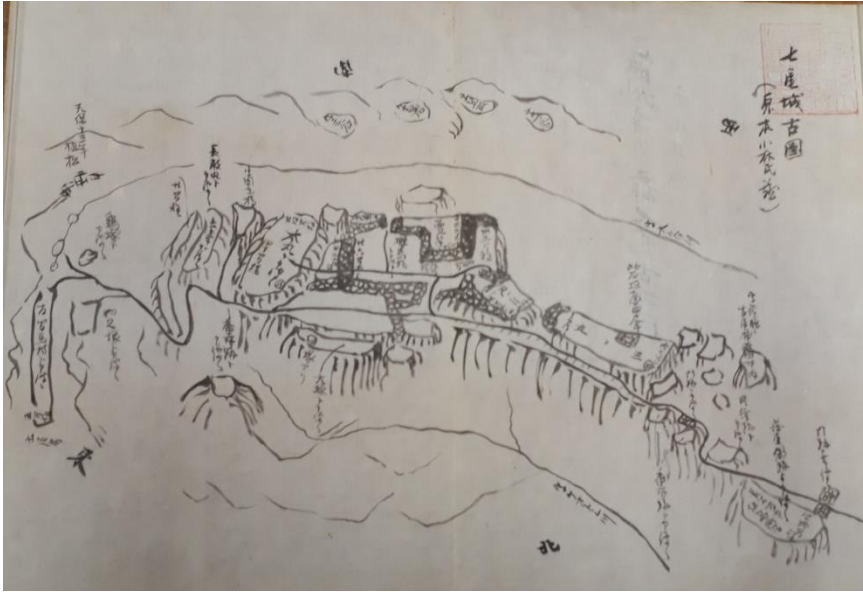
能州鹿島郡七尾城古図（①の絵図）



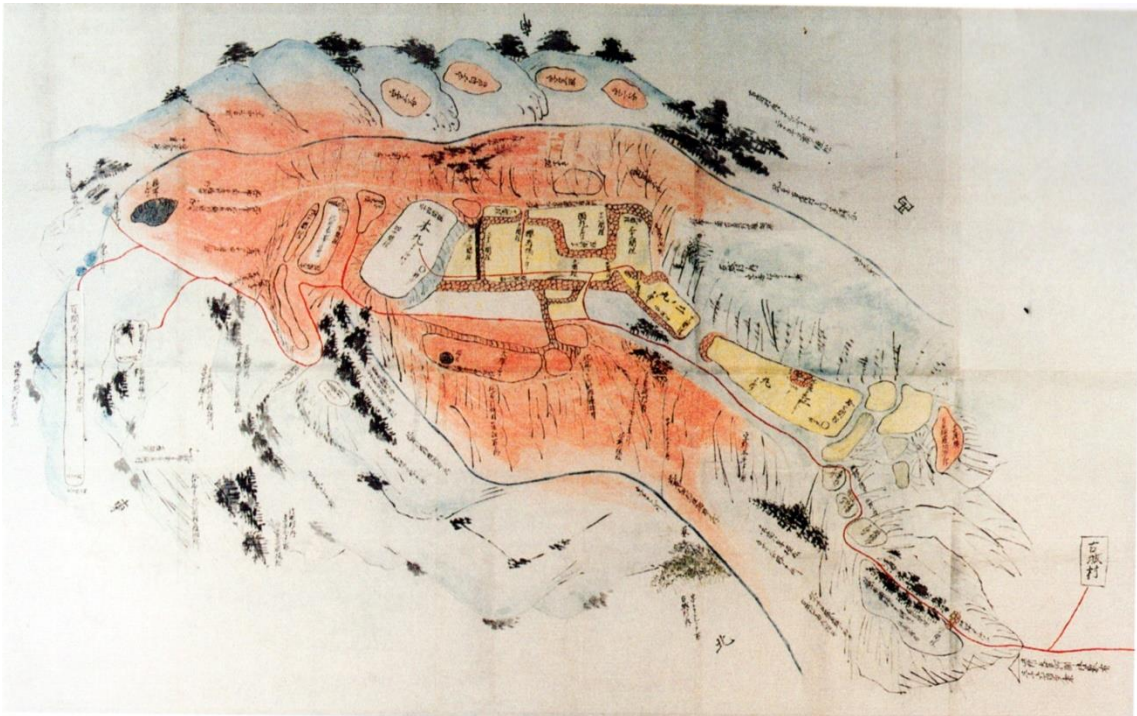
能州鹿島郡七尾古城図（②の絵図）



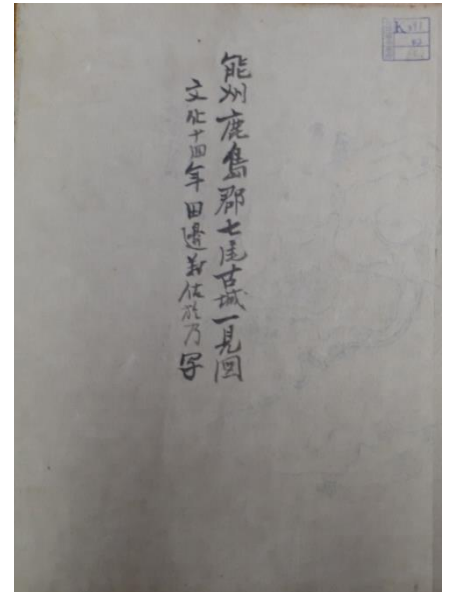
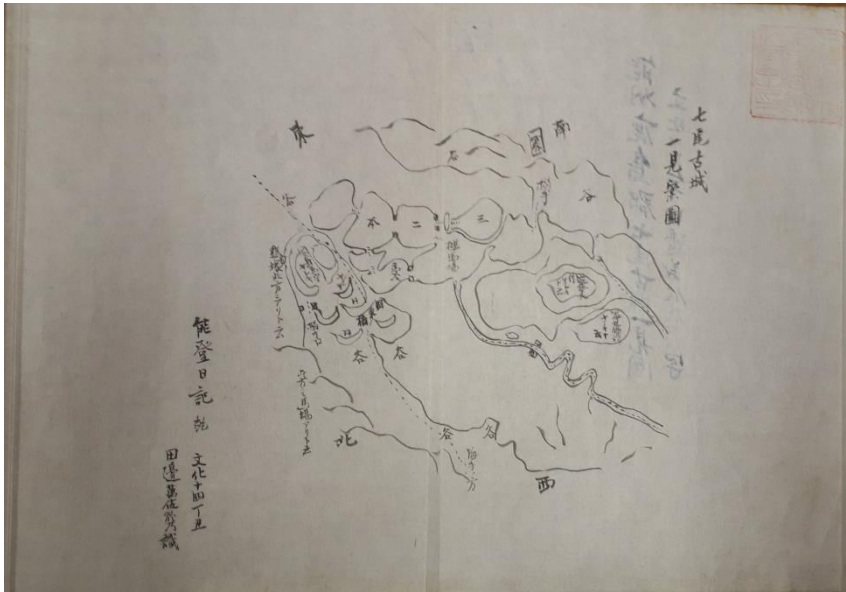
七尾城絵図（小田吉之文編『能登七尾城主畠山記』の付図）



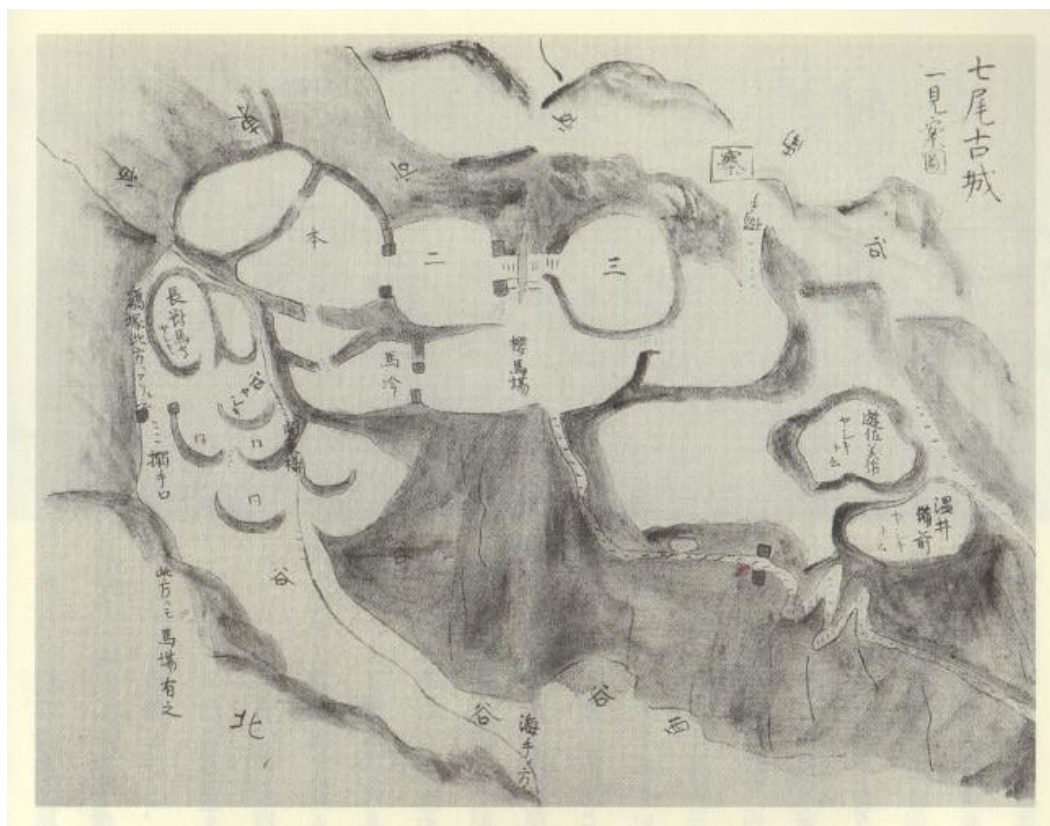
能州鹿島郡七尾古城図 (③の絵図)



七尾城址古園 (⑤の絵図)



能州鹿島郡七尾古城一見図（④の絵図）



七尾古城一見案図（『新修七尾市史 11 教育文化編』より転載）

付 編

- (1) 平成 30 年度七尾城跡来城者アンケート結果
- (2) 七尾城跡に関する新聞報道

(1) 平成 30 年度七尾城跡来訪者アンケート結果

①アンケートの概要

□目的：七尾城跡の保存・活用・整備のため

□実施者：七尾市教育委員会（スポーツ・文化課）

□期間：平成 30 年 4 月 28 日～10 月 28 日までの土・日・祝日の延べ 42 日間。

※9 月 9 日より県道 177 号城山線が通行止め

□方法：七尾市観光ボランティアガイド「はろうななお」の協力のもと、七尾城跡本丸駐車場および七尾城史資料館で来訪者に実施（任意）。

□内容：別紙アンケート用紙のとおり（40 頁）

□結果：

1-1	性別（回答 407 人）	男性 274 人、女性 133 人
1-2	年代（回答 415 人）	30 代まで 94 人、40 代以上で 321 人
1-3	住所（回答 405 人）	関東 108 人、北陸東海近畿 169 人、市内 14 人。
2	交通（回答 400 人）	自家用車 322 人
3	訪問（回答 414 人）	はじめて 364 人
4	目的（回答 408 人）	観光行楽レジャー 358 人
5	印象（回答 642 人）	石垣・自然 503 人、ガイド 130 人
6	史跡（回答 400 人）	知っていた 233 人、知らなかった 167 人
7	整備（回答 408 人）	すべき 306 人、すべきでない 102 人
8	整備内容（回答 389 人）	遺構・建物復元 292 人、樹木伐採 80 人
9	しない理由（回答 86 人）	現状維持 83 人
10	感想（回答 237 人）	43 頁～49 頁参照

※5 印象については複数回答可

□その他

- ・アンケート回答者の傾向は、40 才代以上の男性が多い。
- ・住所は、関東が多く、ついで近畿・東海・北陸が多い。
- ・観光などが主な目的で、はじめて訪問した人が多数を占める。
- ・印象は、石垣が最も多かったが、自然・ガイドも好評であった。
- ・整備「すべき」との回答で、整備内容については遺構復元の意見が最も多かった。
- ・整備「すべきでない」との回答で、しない理由は現状維持が多数を占めていた。
- ・登山道の整備や PR 活動の充実を求める意見もあった。

アンケート調査ご協力をお願い

七尾市教育委員会

本日は、ご来訪ありがとうございます。

皆様のご意見・ご感想を、今後の七尾城跡^{あと}整備・活用のために参考とさせていただきます。

(なお、このアンケートは他の目的には利用いたしません。)

1 おしえてください。

・性別 ① 男 ② 女

・年齢 ① 9才以下 ② 10代 ③ 20代 ④ 30代 ⑤ 40代 ⑥ 50代 ⑦ 60代 ⑧ 70代以上

・住所 () 都道府県 () 市町村

2 どのような交通手段で来られましたか？

① 自家用車 ② バス ③ タクシー ④ その他 ()

3 七尾城跡のご来訪は何回目ですか？

① はじめて ② 2回 ③ 3回 ④ 4回以上 (回数：)

4 ご来訪の目的を教えてください。

① 観光・行楽・レジャー ② 学習・調査 ③ その他 ()

5 何が印象に残りましたか？ (複数可)

① 石垣などの遺構群 ② 自然環境 ③ ガイド ④ その他 ()

6 七尾城跡が国の史跡であることをご存知でしたか？

① 知っていた ② 知らなかった

7 七尾城跡の整備事業を実施すべきでしょうか？

① 実施すべき ② 実施すべきでない

8 7で①実施すべきと答えた方にどのように整備すれば良いかお聞きします。

① 建物復元 ② 石垣などの遺構復元 ③ 樹木伐採 ④ その他 ()

9 7で②実施すべきでないと答えた方にその理由をお聞きします。

① 現状が良い ② 経費がかかるため ③ その他 ()

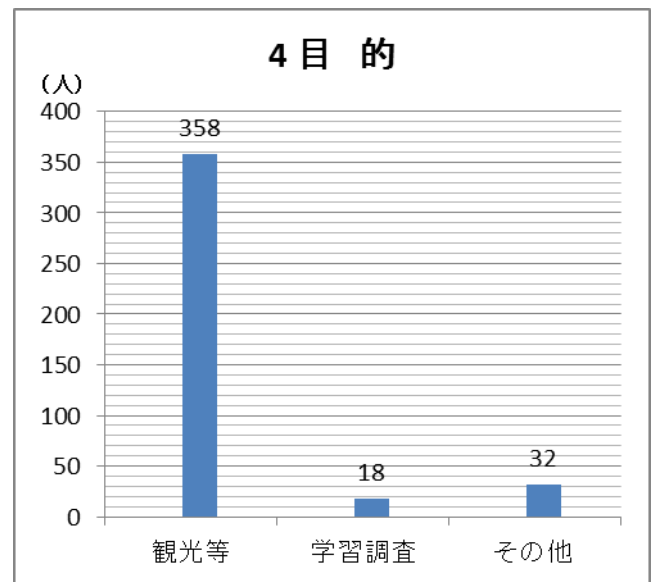
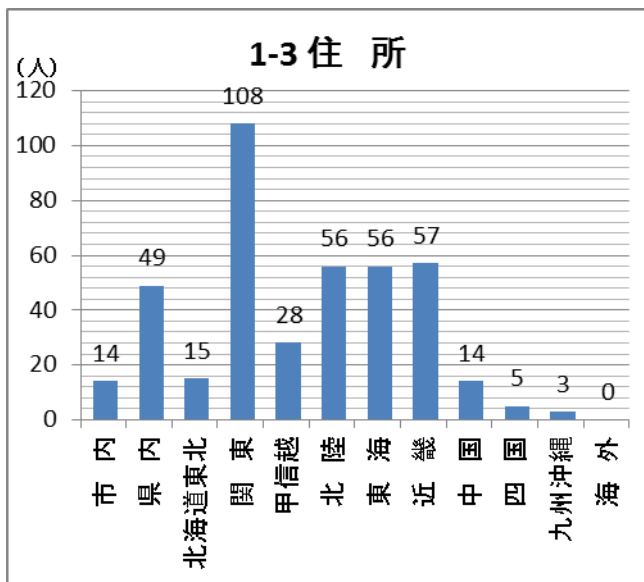
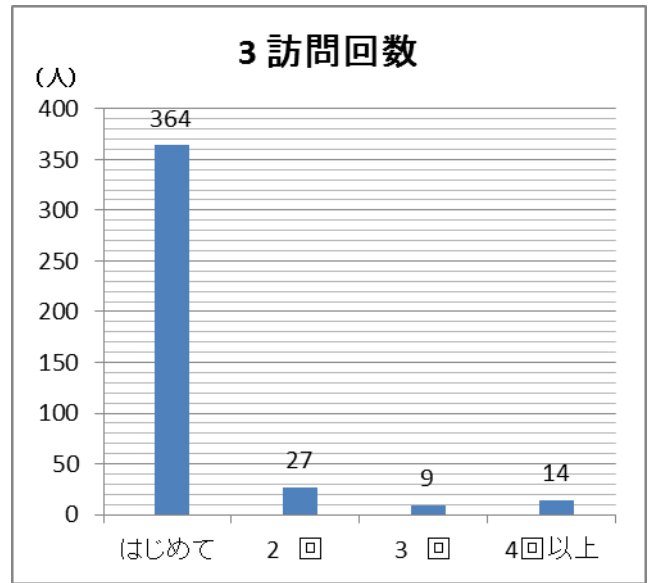
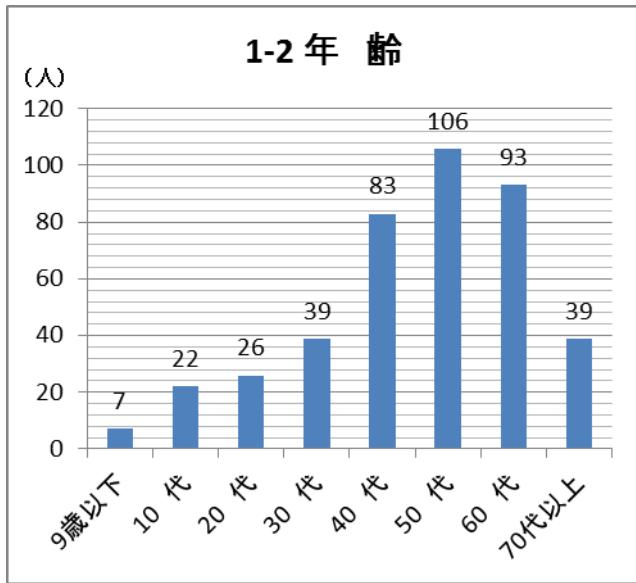
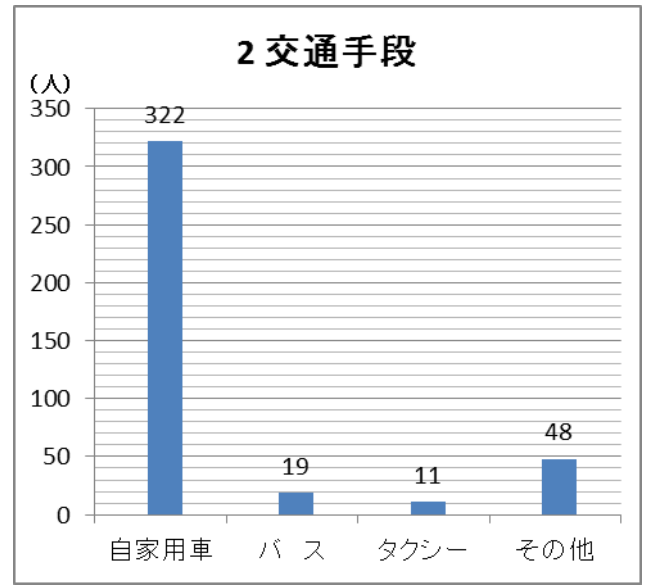
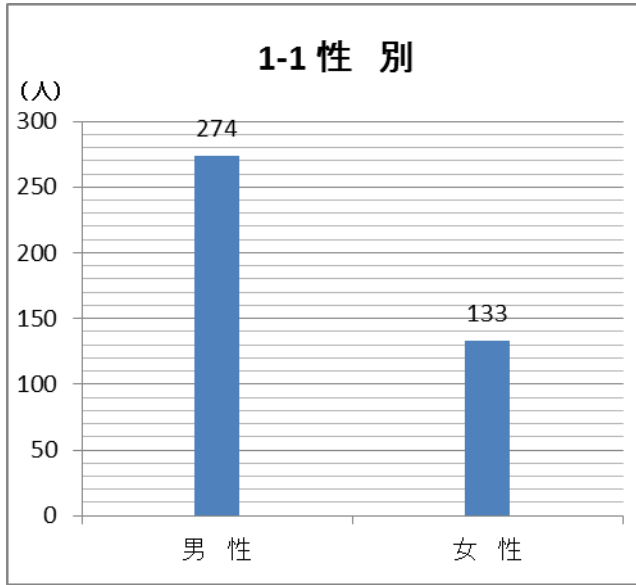
10 七尾城跡に関するご意見・ご感想をご自由にお書きください。

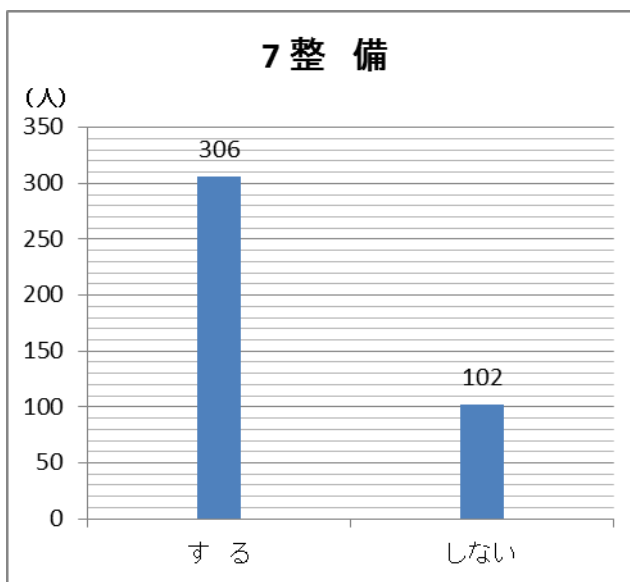
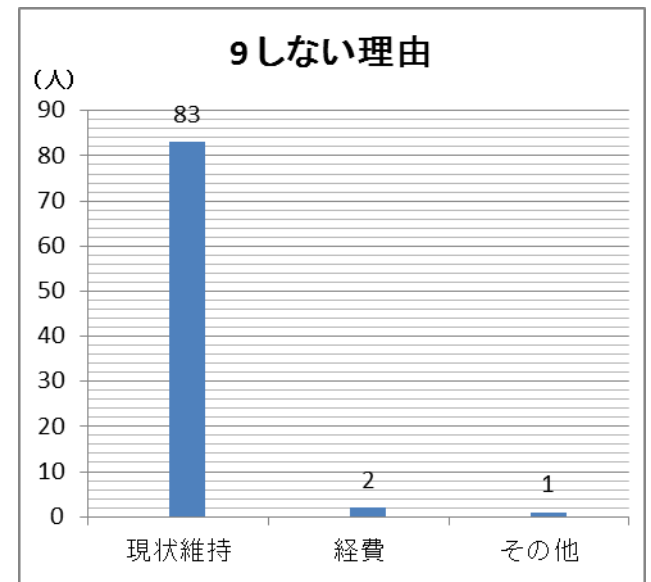
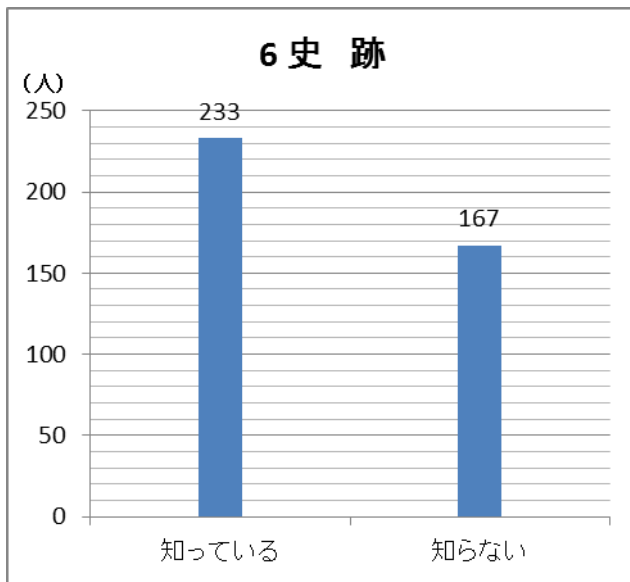
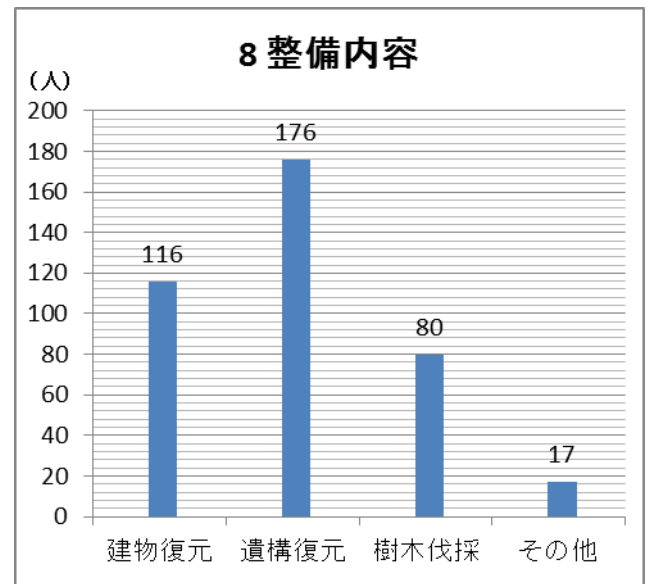
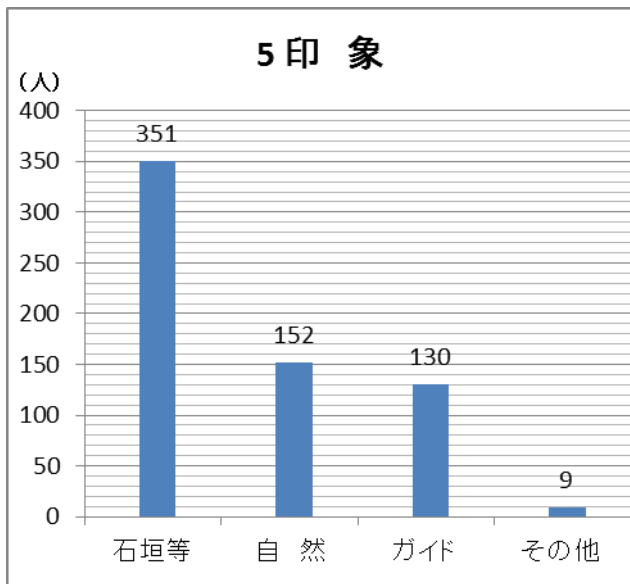
.....
.....
.....

ご協力ありがとうございました。

(アンケート記入日 平成 年 月 日)

③アンケート結果





10 感想

【意見】

- ・登ってくるまでの道を整備してほしい。ガイドの方々がとてもやさしかった。(50代女性)
- ・貴重な史跡ですので、まず保存を第一に、そのうえで活用策を考えてください。(60代男性)
- ・現状のまま、感動すべき山城ですので、このままの状態を守る事が良いと思います。(60代男性)
- ・いい運動になった。かいだんなどの坂がすべりやすいのですべらないようにしてほしいです。(10代男性)
- ・ウッドチップの道が足に良くてよかったです(今まで他ではなかった)。このまま継続してください。(40代男性)
- ・すべてが跡のため、いろいろな想像をしながら楽しむことができたが、できれば、CGではなく、実物で、当時の様子が知れたらうれしい。(30代男性)
- ・やはり建物は復元した方が良いと思います。(70代以上男性)
- ・もっとPRすべき城跡と思います。(50代男性)
- ・ガイドの説明がわかりやすく勉強になりました。山の上の城跡なので大変だと思いますが石垣のほきょうとか木の伐採 etc の管理をお願いします。(40代女性)
- ・もっと整備が進むと、観光客を誘致できると思います。財源を捻出する為、税金を集める工夫をするとよいと思います。(40代男性)
- ・できるだけ自然のまま、必要最小限の整備をしてほしい。(50代男性)
- ・石垣群の迫りに圧倒された。素晴らしい景観でした。できることなら本丸を復元してほしいと思います。ガイドさんも親切で丁寧でした。(50代男性)
- ・残っている部分が限られている分、想像で楽しめる世界が広がる。また、ガイドさんによる説明により一層イメージ、具体化され、そういう楽しみ方も残してほしい。貴重な時間と体験をありがとうございます。(40代女性)
- ・もう少し道等を整備すると良いと思います。(40代男性)
- ・石垣遺構が残されており、山城の魅力を感じた。山城としては、よく整備されており、この状態でも良いと思う。城に関する催しを開催して知名度、親しみやすさを増やしてはどうか。(60代男性)
- ・保存、整備の為に募金を現地ですればよいのでは。(60代男性)
- ・すばらしい自然の中でガイドさんが説明して下さり、ありがたかったです。現在の状態をたもってもらえたらと思います。(40代男性)
- ・道を整備してほしい。(40代男性)
- ・地元の良さを地元、そして外からの人にPR、知ってもらえるようお願い致します。(60代男性)
- ・これ以上整備する必要はないと思う。(40代男性)
- ・ぜひ、復元してほしいです。(40代男性)
- ・大切に守ってほしい。(60代女性)
- ・樹木の多く繁りすぎている所の整理、石垣(野ざら積み)の復元できる範囲で復元してください。(60代男性)
- ・ガイドさんの説明により時代感が良く解りました。また、質問にもていねいに答えて頂いた。是非ガイドを続けていただきたい。(70代以上男性)
- ・ベンチがもう少しあったらよいと思います。(60代女性)
- ・石垣の遺構はすばらしかったです。復元と整備保存を期待しています。(50代男性)
- ・大河ドラマやってほしい。(50代男性)
- ・旧大手道などの整備事業を行うと歩きやすく、当時の面影を感じながら登城することができるかなと思います。(20代男性)
- ・徐々にでも遺構などが整備され、復元されるといいと思います。(40代男性)
- ・何かメインになるものがあれば記憶に残りやすい。(60代男性)
- ・多少の樹木伐採も必要かと思います。(50代男性)

- ・現状がいいので、今のままがいいと思う。(40代男性)
- ・現状をいつまでも保存してほしい。(70代以上男性)
- ・あまり観光地にならないように適度な感じでやってください。(50代男性)
- ・VRを利用して建物群を見られると面白いですね。庭園の石がどこにあったのかわかりませんでした。(40代男性)
- ・手を加えすぎず、残して行ってほしいと思います。(40代女性)
- ・このままの雰囲気で維持してほしい。(40代女性)
- ・昔ながらの石垣はあまり手を入れないでできるだけそのままの姿を残してください。(60代女性)
- ・杉及び樹木の伐採(60代男性)
- ・もっとPRしてください。知らなかった(60代男性)
- ・楽しめました。もう少し整備したほうが良いと思います。特に(ウッドチップ)はとても歩きやすかったです。(70代以上男性)
- ・木を切ってください(70代以上男性)
- ・石垣が壊れないよう整備したほうが良いと思います。(30代男性)
- ・広大な敷地の保存をお願いします。(50代女性)
- ・多くの人に知ってもらえるようにするべきだと思いました。(50代女性)
- ・本丸の地下に空洞があると何十年前の新聞に載っていたので調査してもらいたい。(50代男性)
- ・ガイドさんの説明がわかりやすい。七尾城の復元を見たい(30代男性)
- ・石垣が整備されていてよかった。建物が復元されるともっといいと思う。(60代男性)

【感想】

- ・トレッキングによかった。(60代女性)
- ・石垣。歩いていていろいろなところからきれいな景色。空気おいしい。(10代男性)
- ・いつも利用させて頂いております。ガイドさんも声を掛けてくださりまして大変有難いです。引き続いて宜しくお願いします。(50代男性)
- ・初めて来て、すばらしい景色でした。(30代女性)
- ・標高300mと聞いていたので大した事ないと思っていましたが、なかなかどうして、素晴らしトレッキングコースでした。(60代男性)
- ・とても美しく、景色もよかったです。(60代女性)
- ・景色がすごくきれいでした。(10代女性)
- ・登山途中も中々楽しめた。石垣は素晴らしい。見晴らし最高。(40代男性)
- ・石垣がすごかった。当時のCG写真があってわかりやすかった。(40代女性)
- ・ウッドチップが良かった。(40代男性)
- ・いつ登っても、すてきな所ですねー。(50代女性)
- ・大変きれいでした。(40代男性)
- ・ガイドさんおつかれさまでした。ありがとうございます。(60代男性)
- ・ガイドさんがとても優しく、詳しいお話がきけてとてもうれしかったです。いい思い出になりました。(20代女性)
- ・ガイドをしていただいて、知らなかったことがたくさんあって面白かったです。ありがとうございます。(40代女性)
- ・よかったです。(40代男性)
- ・ご案内どうもありがとうございました。(60代男性)
- ・ここまできれいに石垣が残っているのはすばらしいです。(30代男性)
- ・おもっていたよりもきれいに残っていました。石垣がとてもきれいに残っていて、とてもよかったです。(9歳以下男性)
- ・親切なガイドさんでたすかりました！！(60代女性)

- ・写真だけでは知り得ないことを知りました。(60代男性)
- ・ガイドの親切に、話してもらってうれしかったです。ありがとうございました。(50代男性)
- ・すばらしい城跡だと思います。(50代男性)
- ・大変参考になりました。ありがとうございました。(50代男性)
- ・途中までしか行けませんでした、わかりやすいガイドをしていただき感謝しております。ありがとうございました。(50代女性)
- ・先人がすばらしいものを作られたことに、すごく感激しました。とても勉強になりました。また何度でも来てみたいと思いました。ありがとうございました。(60代女性)
- ・七尾城跡について細かく知る事が出来て、とても見るのが楽しかったです。勉強になりました。(20代女性)
- ・地元に住んでゆっくり見た事がなく、テレビでも出ているので、一度ゆっくり見てみたかった。ガイドさんに、案内してもらって、楽しくすごせました。(50代女性)
- ・地元にながらなんとなくしか理解できなかったのですが、説明をして頂きありがとうございました。こんなにきれいに整備されている為、また来たいと思いました。(50代女性)
- ・もっとPRして七尾の良さを知ってもらおうよう、戻ってPRしたいと思った。(40代男性)
- ・ガイドさんによる説明が良かった。(60代女性)
- ・山城だというので、もう少し大変かと思ったけど、どうにか登れました。遺構だけでも見ごたえがありました。くずれないことを望みます。(70代以上女性)
- ・時間が余ったから立ち寄っただけのつもりだったが、とても景観が良くて来て良かった。ガイドさんもとても親切でうれしかった。(20代男性)
- ・石垣がとてもきれいに残っていて感動しました。道などの整備がきちんとできていて歩きやすかったです。(50代女性)
- ・ウッドチップが良い香りで歩きやすかったです。道も整備されていて足への負担が少なかったと思います。自然がたくさんで、実家の方では見られない大きなトンボが見られたことが嬉しい出来事でした。(10代女性)
- ・ガイドさんの話を聞きながら見学ができて、勉強になりました。(50代男性)
- ・石垣がきれいに並んでいて、自分の好きな石垣がきれいに見れてよかったです。頂上からのながめもひじょうにきれいでした。(10代男性)
- ・CGでの図があり、当時の様子がイメージしやすかったです。(20代男性)
- ・良かった。(10代男性)
- ・思ったより高所にあった。(10代男性)
- ・自然が豊かでとてもよかった。(9歳以下女性)
- ・お城があったことを想ぞうできる面白さがありました。(40代男性)
- ・大変素晴らしかったです。ガイドさんには最後まで(三の丸)おつきあいさせていただきありがとうございました。自然もそのままで良かったです。(30代男性)
- ・ガイドさんの説明で良く分かりました。もっと色々勉強したいです。(70代以上女性)
- ・とてもよかった。(40代男性)
- ・来ることができて良かったです。(50代女性)
- ・立派な石垣でおどろきました。規模が大きいだけにもったいないと思います。(50代男性)
- ・現存のじょうたいをいじしてほしい。(50代男性)
- ・見はらしも良くさすが畠山氏!!すばらしかったです。(50代男性)
- ・CGが迫力があり、とても参考になりました。(70代以上男性)
- ・ガイドさんとても良かったです。ありがとうございました。(50代女性)
- ・山城として魅力、当時からの高い築城技術のすばらしさ。(60代男性)
- ・頂上からの景色、現存する土塁・石垣がとてもすばらしかったです。ガイドさんの説明が丁寧でとても勉強になりました。

(20代男性)

- ・暑い中ボランティアの方々大変お疲れ様です。秋の気候の良い時期に、又、訪れたいと思います。(40代女性)
- ・景色がとても良かったです。(40代男性)
- ・また来たいと思います。(50代男性)
- ・夏の暑い中ボランティアガイドしていただきありがとうございます。さすが、100名城という感じです。(60代女性)
- ・自然が多い。(9歳以下)
- ・登るのは大変だったけど、景色がとてもよかったです。また来たらいいな！(10代女性)
- ・山城の体験が出来て楽しいでした。案内の方々のご苦勞を心から感謝いたします。(70代以上女性)
- ・勉強不足でしたので、ガイドの方にいろいろ教えていただいて興味がもてました。(40代女性)
- ・興味ある説明ありがとうございます。(60代男性)
- ・石垣がキレイで良かったです。(20代男性)
- ・知らなかったのですが、友人や家族とまた来ることができると嬉しいです(秋に！)。(60代女性)
- ・石垣がきれいに整備されていてよかったです。(40代男性)
- ・とてもすばらしいです。(50代女性)
- ・家に帰ったら、大河ドラマをもう一度見ます。(60代男性)
- ・本丸からのながめがとても良かったです。(30代男性)
- ・ガイドありがとうございます。(60代男性)
- ・ありがとうございました。勉強になりました。(30代女性)
- ・ガイドさんがよくわかる案内して頂きました。ありがとうございます。(60代女性)
- ・静かで良いところでした。(20代男性)
- ・ガイドありがとうございます。(60代女性)
- ・車で来て、きれいな景色、なかなかよかったです。(40代女性)
- ・畠山氏の時代が想像される。景色もよい。(50代男性)
- ・ありがとうございました。(20代男性)
- ・広域に残っている山城はめずらしく、感動しました。(60代男性)
- ・初めて来ましたが、山城と自然が共に見れて良かったです。(40代男性)
- ・楽しかったです。(10代女性)
- ・見晴らしがすばらしい。説明もわかりやすく、やさしく教えて頂いて、すごく良かった。ありがとうございました。(50代女性)
- ・けっこう標高が高い日本名城だね。(20代男性)
- ・ガイドさんに案内で七尾城のことが良く分かりました。(60代男性)
- ・山城初めてでした。丁寧に説明頂き有難うございました。足が疲れた。よい運動でした。(50代女性)
- ・石垣がとにかくすばらしかったです。(30代男性)
- ・とてもガイドすばらしかったです。(50代女性)
- ・一周して景色も大変楽しく歩いて来ました。(70代以上女性)
- ・石垣がそのまま残っていて良かった。自然がとても良かったです。(50代女性)
- ・ボランティアで高校生の方が行ったウッドチップの敷き詰作業などすばらしい行いだと思いました。(20代男性)
- ・七尾城跡から海まで海まで見えるので七尾城はとても高いと感じました。(9歳以下男性)
- ・目ごたえのあるお城でした。ありがとうございます。(40代男性)
- ・立地条件、眺望、全て良いところで感激でした。(60代男性)
- ・大変良かった。来て良かったです。石垣が素晴らしかったです。CGがイメージができ良いと思います。(50代男性)
- ・ボランティアの方のガイドが大変良かったです。(60代男性)

- ・自然を大切に残して、歴史の重さを感じた。ガイドさんの説明もすばらしく、充実した時間を過ごせた。ありがとうございました。(60代男性)
- ・ていねいな解説で、わかりやすかったです。(50代男性)
- ・良かったです。(30代男性)
- ・石垣が残っている点。ご説明ありがとうございました。(50代男性)
- ・自然豊かでも良かったです。(60代男性)
- ・古き良き遺構がのこっており、とても素晴らしいと思います。ガイドの方も多くの事を語っていただきありがとうございました。(50代男性)
- ・見晴らしがよかったです。(10代男性)
- ・樹木がいたるところに植えてあり、緑が印象的でした。本丸が思ったよりも高いところにあるなと感じました(20代女性)
- ・すごい一言に尽きました。なんせすごい(40代女性)
- ・楽しい案内でした。(70代以上男性)
- ・名所説明書とともにあったCG図が当時を想像でき、非常に良かったです。(30代女性)
- ・それなりによく整備されており、巡るルートもわかりやすい。(50代男性)
- ・初めてきた。山城なので復元は大変だと思うが、少しずつ進んでいて素晴らしいと感じました。(30代男性)
- ・楽しいお話であつという間に歩いてまわることができました。ありがとうございました。(50代女性)
- ・思ったより石垣が大規模で感嘆しました。ガイドの方の説明で背景や当時の様子、自然の状態を知ることができました。(50代男性)
- ・城跡からの眺めはすばらしい。みんなに教えたいと思った。(60代女性)
- ・大変素晴らしい、これからの整備が大変だと思います。(70代以上男性)
- ・良い説明でよくわかりました。ありがとうございました。(70代以上男性)
- ・初めてでしたがガイドさんに同行してもらい有難かった。(50代男性)
- ・規模の大きさに驚きました。(60代男性)
- ・整備されていて楽しく歩けました。(50代男性)
- ・維持管理の良さが素晴らしい。(50代男性)
- ・石垣も上からの景色もとてもきれいでした。(30代女性)
- ・石垣素晴らしいです。頑張ってください(50代男性)
- ・ありがとう(60代男性)
- ・山城で素晴らしかった(50代男性)
- ・歴史がある重要な遺物(60代男性)
- ・歩きやすかったです。ガイドの方もありがとうございました。(30代女性)
- ・初めて来てみたが軽々と歩いて気持ちよかったです。今度は、友人と来てみたいです。(40代女性)
- ・ガイドさんに親切にいただきました。いろいろ勉強になりました。ありがとうございました。(60代女性)
- ・次は下から上ります。評判通りの素晴らしい遺構でした。(30代男性)
- ・ガイドさんの案内がとてもよかったです。次は資料館の方から歩いて登ります。(30代女性)
- ・車で本丸ちかくまで来ることができたて便利でした。(40代男性)
- ・石垣がきれいに残っていて感動しました。(40代女性)
- ・石垣が素晴らしい(60代男性)
- ・ガイドいただき有難いです。(70代以上男性)
- ・ガイドの高位さんから、歴史も含む城跡の案内がとてもよかったです。ジョークも上手、笑顔、お話がとてもよかったです。(70代以上男性)
- ・ガイドさんの説明がよく、知識が無く来たのでよく理解できた。(50代男性)

- ・景色がとても素晴らしかったです。(60代女性)
- ・能登湾の絶景がよかった。(70代以上男性)
- ・良かったです七尾(60代女性)
- ・詳しいご説明どうもありがとうございました。(60代男性)
- ・道に木材チップを引いてあるのがよかった(50代男性)
- ・ありがとうございました。(50代男性)
- ・石垣、ながめ、素晴らしい、曲輪の多さにびっくり(50代男性)
- ・ガイドさんが常駐していらっしゃるうれしかった。やはり説明していただくことにより、より七尾城のすごさが理解できた(60代女性)
- ・よかった(50代男性)
- ・七尾湾方面の眺望が見事です。遺構がしっかり残っていると感じました。(50代男性)
- ・はじめてきましたが、考えていたより規模が大きく、整備すれば観光資源になりそう。(70代以上男性)
- ・ほかの山城はいろいろありますがきれいに整備されていた。(60代男性)
- ・お世話になりました。近所なので また伺います。ありがとうございました(50代男性)。
- ・素晴らしい城跡でした。(60代男性)
- ・古城の古さのたたくまい自然のままがとても印象深いものあり 時代の流れ感じました。とてもいいお城跡でした。(70代以上女性)
- ・七尾と八尾の関連について調べてみようと思います。(60代男性)
- ・城のうい土など感動した。(50代)
- ・本丸からの風景がよかった(40代男性)
- ・今日、ありがとうございました。4年前から一度来てみたかったので満足しています。(70代以上女性)
- ・ボランティアの人が良かった。(40代男性)
- ・定年後にゆっくり訪れたい(60代男性)
- ・石垣が素晴らしかったです。駐車案内も丁寧にいただきました。(40代女性)
- ・いい思い出になりました。七尾城が好きになりました。ありがとうございました(30代女性)
- ・今度、ゆっくりと歩いてみたい。(50代男性)
- ・上杉謙信が漢詩で詠んだ思いが分かった気がしました。(40代男性)
- ・今日始めてきました。景色を含めてとても素晴らしいと感じました。雨上がりであったので滑りやすかった。(50代女性)
- ・道が進みやすかった(10代女性)
- ・本丸跡からのながめがよかった。ウッドチップの道が歩きやすかった。(50代男性)
- ・日本五大山城とは知らず、趣味の城跡巡りとしてきたのですが立派な石垣が保存状況もよく残っていて本当に来てよかったと感じました。(30代男性)
- ・自然の中にあるいい城だと思う。(40代男性)
- ・城の歴史を丁寧に教えていただき大変勉強になりました。今後、七尾に関する報道を見たとき、身近に感じられると思いました。VOさんありがとうございました。(60代男性)
- ・松島さんありがとうございました。とてもわかりやすく案内いただきました。(50代男性)
- ・石垣などの遺構や曲輪の形などよく残っており見応えがありました。ありがとうございました。(20代女性)
- ・立派な山城跡が驚きました。ガイドの方の説明が分かりやすかったです。(50代女性)
- ・素晴らしい！いかにもな山城に感激しました。本丸跡からの景観もとてもよかった。(40代女性)
- ・天然のよう害城でとても面白かった。(10代女性)
- ・戦国時代の代表的(個人的に)な戦があった城なので、来て良かったです。能登の歴史もガイドさんに教えてもらったので勉強になりました。能登観光もしてみたいと思いました。(40代女性)

- ・石垣がきちんと残っていて、ここを人が通っていたのかと思いました。歴史を感じました。また本丸跡から景色は素晴らしかったです。(50代女性)
- ・景色がいい(40代男性)
- ・とても楽しかった(10代男性)
- ・歩きやすく道が整備されてよかった。(40代男性)
- ・足も尾きれいにチップひいて下さり歩きやすかったです。ボランティアの方の話ありがたかったです。ありがとうございました。(40代女性)
- ・丁寧なガイドありがとうございます(60代男性)
- ・木のチップがよかった(10代男性)
- ・歴史の流れを感じました(50代男性)
- ・いいお天気で気持ち良かったです。ガイドのおかげで楽しく登城できました。(50代男性)
- ・良い城跡です。(60代男性)
- ・きれいな景色だった(9才以下女性)
- ・ガイドさんに案内を頼めばよかったと思いました。(40代女性)
- ・石垣と本丸の景色が良かったです。(40代女性)
- ・本丸などの場所がすごく、この場所は攻められづらいと思った。(10代男性)
- ・石垣がよかった。(40代女性)
- ・見晴らしがよく、素晴らしかった。石垣も現存されていて、良かったです。上様の気持ちになれました。(40代女性)
- ・道にチップがしいてあり高齢者にも歩きやすくてよかった。(50代女性)
- ・なかなかしっかりと城跡が残っていて感心しました。(70代以上男性)
- ・石垣がよく残っていてよかった。(40代男性)
- ・畠山、知りませんでした。(10代男性)

(2) 七尾城跡に関する新聞報道

①新聞報道一覧

(平成 30 年)

- 4 月 14 日 (土) 北國新聞／「義」はスローガン？／能登と信濃に温度差／謙信襲来 北陸戦国ヒストリア 7 萩原大輔
- 4 月 16 日 (月) 北國新聞／七尾城の庭園跡か／湾から運搬 石材を初確認／重臣邸の可能性／能登畠山文化 源流を行く
- 4 月 22 日 (日) 北國新聞／七尾城跡周辺の道路をきれいに／住民 200 人が清掃
- 5 月 27 日 (日) 北國新聞／七尾城跡で清掃活動／興能信金職員ら
- 5 月 31 日 (木) 北國新聞／謙信が称賛絶景再び／七尾城樹木を剪定／市遊歩道を整備
- 6 月 13 日 (水) 北國新聞／「能登の宝」城山に登る 藪下敏和／地鳴り
- 6 月 14 日 (木) 北國新聞／傘寿記念に七尾城跡訪問／七尾高 10 期生 絶景眺め「ふるさとに誇り」
- 6 月 15 日 (金) 北國新聞／七尾城跡でガイド研修／東雲高生、デビュー目指す
- 6 月 23 日 (土) 北陸中日新聞／山上の城 陰しく謎多く／小塚記者が行くてくくてく利家ゆかりの地へ
- 6 月 24 日 (日) 北陸中日新聞／城下を一望 遠征を憶う／小塚記者が行くてくくてく利家ゆかりの地へ
- 6 月 27 日 (水) 北陸中日新聞／謙信絶賛の眺望再び／七尾城跡 伸びた樹木伐採／市教委「歴史に思いはせて」
- 8 月 22 日 (水) 北國新聞／「九尺石」、間近で大きさ体感／七尾城跡の山道修復
- 9 月 5 日 (水) 北國新聞／舞台／七尾城の魅力／七尾市矢田町コミュニティーセンター長 永田房雄
- 9 月 12 日 (水) 北國新聞／七尾城への県道 50 メートル崩落／復旧、開通の見通し立たず
- 9 月 12 日 (水) 北陸中日新聞県道城山線 大雨で崩落／七尾 16 日「城まつり」会場変更
- 9 月 12 日 (水) 北陸中日新聞／英語で七尾城跡解説／東雲高生が特訓中／大雨で現地ガイドできないけど
- 9 月 17 日 (月) 北國新聞／七尾城まつり／畠山家、上杉軍に「勝利」／新潟の武将隊招き初演舞
- 9 月 17 日 (月) 北陸中日新聞／児童ら武者姿 迫力演舞／城山体育館で七尾城まつり／豪雨被害で会場変更も「やり遂げた」
- 10 月 18 日 (木) 北國新聞／七尾城跡行けます／県道城山線 大雨で通行止め／市が迂回ルート紹介
- 11 月 17 日 (土) 読売新聞／国史跡、名称 範囲拡大へ／文化審が答申／七尾城跡、上時国氏庭園、時国氏庭園
- 11 月 17 日 (土) 北國新聞／国文化財の面積拡大／七尾城跡・上時国氏庭園・時国氏庭園／文科省に追加指定を答申
- 11 月 17 日 (土) 北陸中日新聞／七尾城跡・上時国氏庭園・時国氏庭園／新区域 国史跡

に追加指定へ

- 12月 1日 (土) 読売新聞／七尾湾を一望 謙信称賛／北陸大紀行 山城4 七尾城
 - 12月 2日 (日) 北陸中日新聞／半島再見 実りと彩りを訪ねて／七尾城跡まで続く県道城山線／紅葉に映える冬桜
 - 12月 11日 (火) 北陸中日新聞／焼き付けて 城山の植物／撮影 12年 DVD 図鑑に／保存考える会 国分会長
 - 12月 13日 (木) 北國新聞／七尾高に畠山氏の館跡？／千田奈良大教授が考察／七尾城以前の拠点 どこに／従来の学説に一石
 - 12月 17日 (月) 北國新聞／七尾城 前田家も改修／記念講演で奈良大・千田教授
 - 12月 25日 (火) 北國新聞／今年度最多 7409 人来館／七尾城史資料館
- (平成 31 年)
- 2月 18日 (月) 北國新聞／七尾城 大手道を整備／七尾市、新年度／国史跡に追加申請／整備基本計画の策定着手／城下町範囲調査へ発掘
 - 3月 10日 (日) 北國新聞／外国人客に七尾城解説／復元 CG 映像に英語版／七尾城史資料館

②七尾城跡関係新聞記事 (切り抜き)



北國新聞 平成 30 年 5 月 31 日 (木)



北陸中日新聞 平成 30 年 6 月 27 日 (水)



「九尺石」、間近で大きさ体感 七尾城跡の山道修復

七尾市が6月から国史跡「七尾城跡」で進めていた、巨石「九尺石」につながる山道の修復工事が21日まで完了した。昨年7月の豪雨で一部が崩れ、通行禁止となっていた。巨石は大手門の遺構の一部とも考えられ、1年1カ月ぶりに観光客が間近で大きさを体感できるようになった。

市によると、名の通り幅9尺(約2・7m)ある九尺石は、史跡では最大の石で、本丸の石垣に使われた石と比べても大きさは2倍以上ある。市の担当者は「大手門に相当する格式の高い門の基礎だったと考えられる」と推察する。

昨年7月の豪雨被害では、九尺石に向かう山道の端が長さ約十数メートルにわたって崩落した。市は、3月にまとめた保存活用計画に基づいて6月から修復工事に着手し、山道脇に鉄製のかごを階段状に設けて砂を敷き詰め、植栽シートで覆った。



修復された山道を通って九尺石のそばを訪れる観光客
＝七尾市の七尾城跡



北國新聞 平成 30 年 8 月 22 日 (水)

県道城山線 大雨で崩落

七尾 16日「城まつり」会場変更

石川県七尾市の国指定史跡七尾城跡につながる県道城山線が、大雨の影響で崩落していたことが11日、県中能登土木総合事務所の調べで分かった。今週末には城の歴史をしのぶ祭りの開催が予定されているだけに、地元関係者からは落胆の声が続出した。

同事務所によると、職員が11日朝にパトロールをしたところ、道が崩落しているのを発見した。本丸北駐車場から直線北に約一キロ離れた山中腹付近で、五十メートルにわたって崩れており、復旧のめどは立っていないという。県道は、



崩落し、土砂に覆われた県道城山線。11日、石川県七尾市矢田町で、永田房雄センター長提供

大雨の影響で九日から通行止めになっていた。十六日には、七尾城まつりが同城跡で開かれる予定だったが、会場を市城山体育館に変更することを決めた。



北陸中日新聞 平成 30 年 9 月 12 日 (水)

た。実行委の事務局がある市矢田郷地区コミュニティセンターの永田房雄センター長(右)は「今年は七十七回目の七尾城まつりと、七が連続記念の祭りしようとしていただけに残念。早く復旧することを願っている」と話した。(松村真一郎)

七尾市は17日までに、国史跡「七尾城跡」へ向かう県道城山線が9月上旬の大雨で通行止めとなっていることから、迂回路の案内を始めた。市内外の観光客から「七尾城跡に車で行けないのか」との問い合わせが相次いでいるため、林道や市道を走り継ぐルートに矢印看板を設置した。七尾城史資料館に迂回路の案内チラシを置き、近くのホームページにも掲載する。

七尾市街から七尾城跡の本丸北駐車場を経、県道城山線は大雨で一部が延長50メートルにわたって崩落した。県中能登土木総合事務所によれば、現在も復旧の見通しは立たず、少なくとも年内は通ることができない。

県道城山線 大雨で通行止め



七尾城跡 行けます

市が迂回路紹介

七尾城跡は国内最大級の山城で、昨年度は約3万人が訪れるなど七尾観光の目玉となっている。管理する市スポーツ・文化課には一日3件ほど車で迂回路を尋ねる電話があるという。

迂回路は、県道花園線から林道城石線、市道南大谷1号線を通るルートとなる。麓からは県道城山線を通る約3倍の25分ほどかかる。道幅が狭く、大型バスは利用できない。市の担当者は「車で行けなくなっただけで、人が多すぎた」と話した。

北國新聞 平成 30 年 10 月 18 日 (木)



七尾城跡 上時国氏庭園 時国氏庭園

国文化財の面積拡大

国の文化審議会(佐藤信会長)は16日、国の「七尾城跡」(七尾市古府町)、「上時氏庭園」(同市輪島町野町)、「時国氏庭園」(同市輪島町野町)のそれぞれを指定面積を拡大する追加指定を行なった。柴山屋敷部や石垣を指定し、年度内に答申通り追加指定される見込みだ。七尾城跡では城に纏わり付いた石垣が、庭園は築山や池の風格を継承した。追加指定面積は、七尾城跡が約1.5倍、上時氏庭園が約1.5倍、時国氏庭園が約1.5倍に拡大される見込みだ。

文科相に追加指定を答申



七尾城跡を歩く「歴史の道」(七尾市内)



上時国氏庭園の門跡・石垣(輪島市町野町南時国)



時国氏庭園の水路(輪島市町野町西時国)

七尾城跡は、指定面積の26万6169平方メートル(約27万5400坪)に拡大される見込みだ。追加指定面積は、約1.5倍に拡大される見込みだ。七尾城跡は、城に纏わり付いた石垣が、庭園は築山や池の風格を継承した。追加指定面積は、七尾城跡が約1.5倍、上時氏庭園が約1.5倍、時国氏庭園が約1.5倍に拡大される見込みだ。

指定面積は、約26万6169平方メートル(約27万5400坪)に拡大される見込みだ。追加指定面積は、約1.5倍に拡大される見込みだ。七尾城跡は、城に纏わり付いた石垣が、庭園は築山や池の風格を継承した。追加指定面積は、七尾城跡が約1.5倍、上時氏庭園が約1.5倍、時国氏庭園が約1.5倍に拡大される見込みだ。

追加指定面積は、約1.5倍に拡大される見込みだ。七尾城跡は、城に纏わり付いた石垣が、庭園は築山や池の風格を継承した。追加指定面積は、七尾城跡が約1.5倍、上時氏庭園が約1.5倍、時国氏庭園が約1.5倍に拡大される見込みだ。

北國新聞 平成 30 年 11 月 17 日 (土)

追加指定面積は、約1.5倍に拡大される見込みだ。七尾城跡は、城に纏わり付いた石垣が、庭園は築山や池の風格を継承した。追加指定面積は、七尾城跡が約1.5倍、上時氏庭園が約1.5倍、時国氏庭園が約1.5倍に拡大される見込みだ。

追加指定面積は、約1.5倍に拡大される見込みだ。七尾城跡は、城に纏わり付いた石垣が、庭園は築山や池の風格を継承した。追加指定面積は、七尾城跡が約1.5倍、上時氏庭園が約1.5倍、時国氏庭園が約1.5倍に拡大される見込みだ。

追加指定面積は、約1.5倍に拡大される見込みだ。七尾城跡は、城に纏わり付いた石垣が、庭園は築山や池の風格を継承した。追加指定面積は、七尾城跡が約1.5倍、上時氏庭園が約1.5倍、時国氏庭園が約1.5倍に拡大される見込みだ。

追加指定面積は、約1.5倍に拡大される見込みだ。七尾城跡は、城に纏わり付いた石垣が、庭園は築山や池の風格を継承した。追加指定面積は、七尾城跡が約1.5倍、上時氏庭園が約1.5倍、時国氏庭園が約1.5倍に拡大される見込みだ。

追加指定面積は、約1.5倍に拡大される見込みだ。七尾城跡は、城に纏わり付いた石垣が、庭園は築山や池の風格を継承した。追加指定面積は、七尾城跡が約1.5倍、上時氏庭園が約1.5倍、時国氏庭園が約1.5倍に拡大される見込みだ。

追加指定面積は、約1.5倍に拡大される見込みだ。七尾城跡は、城に纏わり付いた石垣が、庭園は築山や池の風格を継承した。追加指定面積は、七尾城跡が約1.5倍、上時氏庭園が約1.5倍、時国氏庭園が約1.5倍に拡大される見込みだ。

追加指定面積は、約1.5倍に拡大される見込みだ。七尾城跡は、城に纏わり付いた石垣が、庭園は築山や池の風格を継承した。追加指定面積は、七尾城跡が約1.5倍、上時氏庭園が約1.5倍、時国氏庭園が約1.5倍に拡大される見込みだ。

追加指定面積は、約1.5倍に拡大される見込みだ。七尾城跡は、城に纏わり付いた石垣が、庭園は築山や池の風格を継承した。追加指定面積は、七尾城跡が約1.5倍、上時氏庭園が約1.5倍、時国氏庭園が約1.5倍に拡大される見込みだ。



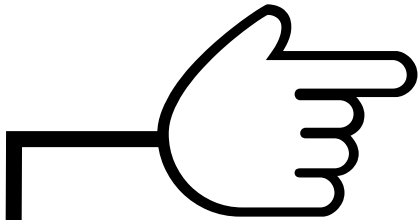
七尾城跡へつながらる登城道(七尾市古府町)で、七尾市教委提供の「上時氏庭園の一部」(輪島市町野町)で、七尾城跡は、これまで主郭の文化審議会による七尾城跡(七尾市)と名勝(上時氏庭園、時国氏庭園)見通しとなった。七尾城跡は、これまで主郭の文化審議会による七尾城跡(七尾市)と名勝(上時氏庭園、時国氏庭園)見通しとなった。

追加指定面積は、約1.5倍に拡大される見込みだ。七尾城跡は、城に纏わり付いた石垣が、庭園は築山や池の風格を継承した。追加指定面積は、七尾城跡が約1.5倍、上時氏庭園が約1.5倍、時国氏庭園が約1.5倍に拡大される見込みだ。

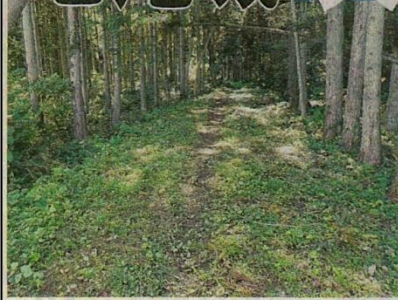
七尾城跡 上時国氏庭園 時国氏庭園 新区域 国史跡に追加指定へ

追加指定面積は、約1.5倍に拡大される見込みだ。七尾城跡は、城に纏わり付いた石垣が、庭園は築山や池の風格を継承した。追加指定面積は、七尾城跡が約1.5倍、上時氏庭園が約1.5倍、時国氏庭園が約1.5倍に拡大される見込みだ。

追加指定面積は、約1.5倍に拡大される見込みだ。七尾城跡は、城に纏わり付いた石垣が、庭園は築山や池の風格を継承した。追加指定面積は、七尾城跡が約1.5倍、上時氏庭園が約1.5倍、時国氏庭園が約1.5倍に拡大される見込みだ。



七尾城 大手道 を整備



市、新年度

七尾市は国内最大級の山城である国史跡「七尾城跡」の本丸跡を結ぶ旧道「大手道」の約1・7kmの区間を整備する方針を固めた。市は新年度、整備を目的に国史跡に指定されていない一部区間を測量し、追加指定を国に申請する。さらに新年度は七尾城跡の具体的な整備方針を定める基本計画の策定に着手し、麓の城下町の範囲を確認する発掘調査を始める。

国史跡に追加申請

整備基本計画の策定着手 城下町範囲調査へ発掘

市は新年度当初予算案に七尾城跡に関する費用約1700万円を盛り込む。大手道は戦国時代に本丸と城下町を結ぶ主要道路で、人の往来や物資の運搬に使われていたとされる。本丸跡付近から幅約700m区間は既に国史跡の範囲に入っている。中腹の約600m区間は昨年11月に追加指定するよう国の文化審議会が文部科学相に答申し、間もなく指定される見通しだ。市は未指定の幅約400m区間を測量し、追加指定を申請する。

七尾城跡 標高約300mにあたる本丸跡を中心に、郭群や石堀、土堀、出城跡などが多く残り、1977(天正5)年の上杉謙信の侵襲、81年の前田利家の襲撃入国、その後、現在の七尾市中心部にあった小丸山城跡を継ぎ、歴史的になった。1934(昭和9)年に国史跡に指定され、日本五大山城の一つとされる。

▲七尾市が整備する方針を固めた「大手道」
昨年9月、同市古町町

北國新聞平成 31 年 2 月 18 日 (月)



七尾城跡
城下大手道

しかし、道は雨水でくぼんだり、斜面が崩れたりしている箇所があり、市は来訪者が安全に快適に歩けるよう手すりや柵などの整備を想定する。国史跡に指定され、国の補助を受けて整備する方針だ。

市は2017年度に七尾城跡の活用方向性をまとめた保存活用計画を策定した。同計画に基づき、整備800m、東西約900mの範囲は明している。市基本計画を新年度から2年間で策定する。計画はこの範囲の外側にも広がり、策定委員会で議論し、大手道の整備も計画に盛り込む。

このほか、本丸跡付近に麓に広がっていた城下町ある屋敷跡の調査丸の北側斜面が、昨年9月の大雨で約180平方メートルにわたって崩れたため、新年度に復旧工事を行う。

七尾城跡保存活用推進室では平成31年度以降、日常的な維持管理を行いながら、整備基本計画の策定に着手し、大手道などの整備に向けて準備を進めていきます。七尾城跡の本質的価値を次世代に確実に伝えるため、日々取り組んでいきますので、今後ともご理解とご協力の程、よろしくお願ひいたします。

平成 30 年度 七尾城跡保存活用推進室年報（七尾城跡保存活用推進室 年報 1）

編 集 七尾市教育委員会スポーツ・文化課 七尾城跡保存活用推進室

発 行 七尾市教育委員会

発行日 平成 31 年 3 月 29 日

〒926 - 8611 石川県七尾市袖ヶ江町イ部 25 番地

電話 0767 - 53 - 8437 ファックス 0767 - 52 - 5194

E-mail : sportsbunka@city.nanao.lg.jp

〔表紙解説：七尾城本丸から望む七尾湾（上）と城山展望台から見た七尾城本丸〕